

# 教員養成校における ピアノ初心者を対象とした実践的支援 — 『弾き歌い』 のための練習曲作成 —

錦 かよ子

## 1. はじめに

教員養成校における初心者のためのピアノ実技指導は、非常に困難を極めるものである。本学の場合は、『児童音楽』でピアノ実技指導を行っているが、半期15回という制約の中で、初心者でも教員採用試験にパスするレベルにまで到達させるのは、教員にも学生にもかなりの負担である。若菜（2006）<sup>1)</sup>は「2年間という期間でのピアノ学習を有効にする」ための指導法の改善と他の音楽関連科目とのカリキュラムの連携を提案しているが、このように保育士・幼稚園教諭養成校の多くの短大では、ピアノ実技は通年30回の授業において指導を行い、希望者には2年を通してピアノ実技指導を行えるカリキュラムを設定している。本学のように半期15回の授業の中で、『弾き歌い』を効率よく指導するにはどうすればよいのか。多くの県・市は、教員採用試験の音楽関係実技課題として『弾き歌い』を指定しており、その技法の習得のための教則本も市販されてはいる。しかし、教則本は練習曲の分量が多いため、それを使用する時間的な余裕はないのである。ピアノ初心者が、半年で『弾き歌い』ができるようになるための絶対的な方法はありません、ということをも前提としつつ、「初心者のピアノ演奏に必要な基礎的技法」と「弾き歌いの技術に必要な力」をつけるための練習曲を提案するものである。

## 2. レッソンの現状と課題

本学のピアノ指導は専任教員1名と3名の非常勤講師が担当している。平成22年度は230名の学生を、春学期は50, 49, 48名, 秋学期は24, 21, 38名のクラスに分け、合計6コマの授業を行っている。そのうち、専任は初心者だけを担当し、非常勤講師3名は既習者を三分割して担当する方法をとっている。初心者的人数は、春学期は受講者の約半数であり、秋学期は各クラス4分の1から4分の3とばらつきがある。例えば春学期の50名が受講する1コマ90分の授業を例に取れば、半数のピアノ初心者25名を専任教員が一人で担当し、残りの25名の既習者を3名の非常勤講師が担当する。各非常勤講師は8～9名の学生に対し、一人約10分余りの個人レッスンを行う。初心者に対しては、春学期は一人3～4分のレッスン時間しか確保できない。秋学期は1クラスの受講者が少ないため、一人15分のレッスン時間が可能となり、春学期の約5倍のレッスン時間が確保できるのである。このように、初心者を個人レッスンだけで指導するのは、時間的にみても大変困難であるため、グループレッスンを有効に活用しなければ授業が成り立たないということが明白であろう。新校舎建設後は、音楽教室には50台の電子ピアノが完備されたため、グループレッスンを有効に活用して教える方法をとっているが、初心者といえども個人によって音楽的な能力や努力の差が歴然としているため、グループレッスンだけではピアノ技法の習得は不可能である。グループレッスンを行いながら、個人の能力に合わせた個人レッスンを併用して行うことによって、各人の能力に応じた授業を提供することが可能なのである。このような状況から、春学期と秋学期の公平な人数配分と初心者のための有効なレッスン方法が課題になっている。

## 3. 指導目標

### (1) 指導目標

『児童音楽』の指導目標を小学校唱歌共通教材の『弾き歌い』ができることを目標にしている。平成22年度4年生（文学学部教育学科160名）のほとんどの学生は、小学校教諭1種免許の取得を目指しているためである。

(表1) 小学校・幼稚園教諭 音楽関係の実技試験 平成22年度

|         |       |   | 備考              | 弾き歌い   | 備考               | 備考 | その他                       | 備考   |
|---------|-------|---|-----------------|--|------------------|----|---------------------------|------|
| 静岡県     | 幼稚園   | ピアノ等の演奏<br>クレメンティ ソナチネ Op.36<br>ハ長調第1楽章                                     | 備考<br>自己選択、楽譜あり | 「おかあさん」1・2番<br>「さんぽ」1番   | 1曲選択。伴奏自由        |    |                           |      |
| 名古屋府    | 幼稚園   | バイエル「100番」「104番」  |                 | 自由曲  | 表現(歌いながら表現する)    |    |                           |      |
| 大阪府     | 小・中共通 |   |                 | あり   | 当日指定             |    | リコーダー                     | 当日指定 |
| 大阪府     | 幼稚園   | フェルニー、ソナチネの中から1曲を各自選択   | 当日指定            | 曲目は当日指定  | 自由選択             |    | 歌唱                        | 当日指定 |
| 小学校     | 小学校   | 自由演奏(楽器、曲目自由) 弾き歌いも可  |                 |  |                  |    | 無伴奏による歌唱(小学校の教科書教材から自由選択) |      |
| 堺市      | 幼・小共通 |   |                 | 当日指定の曲の中から選曲(昨年度・アイアイ・あばけなんてないさ・手のひらを太陽に・さんぽ・大きな古時計・飛んでったハナナ・山の音楽家・にんげんっていいな・思い出のアルパム) |                  |    |                           |      |
| 神戸市     | 幼・小共通 | ピアノ演奏   | 曲目当日指定          | あり   | 曲目当日指定           |    |                           |      |
| 埼玉県     | 小学校   | バイエル40,49,55,66,74,78,100   | 自由選択            |  |                  |    |                           |      |
| 相模原市    | 小学校   |   |                 | ふじ山、こいのぼり、ふるさと   | 暗譜、自由選択          |    |                           |      |
| 横浜市     | 小学校   |   |                 | ふじ山、冬景色、おぼろ月夜  | 自由選択、楽譜あり、伴奏形態自由 |    |                           |      |
| 東京      | 小・中共通 | ピアノ初見演奏   |                 | 赤とんぼ、荒城の月、早春賦、夏の思い出、花、花の街、浜辺の歌   | 当日1曲指定、伴奏譜自由     |    |                           |      |
| 岐阜県     | 小学校   |   |                 | ふじ山  |                  |    |                           |      |
| 静岡市・浜松市 | 小・中共通 | ディアベリ ソナチネ Op151 No2<br>クレメンティ ソナチネ Op36<br>No2 ベートーヴェン ソナチネ No6・任意の楽器による演奏 | 自由選択            | 流れ行く雲をみつめて、時の旅人、明日を探そう   | 自由選択             |    |                           |      |
| 三重県     | 小学校   |   |                 | 夕やけこやけ   | 楽譜指定             |    | リズムうち                     |      |
| 京都府     | 小学校   | バイエル80番程度以上の任意の1曲   | 暗譜              | 共通教材から学年の違う3曲を各自選択   | 当日1曲指定、伴奏譜自由     |    |                           |      |
| 大和高田市   | 小学校   | ピアノ、ソプラノリコーダー、鍵盤ハーモニカの中から選択   | 詳細は1次試験時に発表     |  |                  |    | 歌唱                        |      |
| 和歌山県    | 小学校   |   |                 | ふじ山、虫の声、とんび、春の小川、ふるさとこいのぼり   | 当日指定             |    |                           |      |

## (2) 教員採用試験の課題曲

表1は平成22年度、小学校・幼稚園教諭採用試験の音楽関係実技試験に関する課題曲を一覧表にしたものである。全県を網羅しているわけではないが、本学学生が多く受験する県の、教職支援室が保有している募集要項から抜粋したものである。この表からわかるように、小学校教諭採用試験においては、『弾き歌い』はほとんどの県・市において実施されており、課題曲の多くは小学校の歌唱共通教材から出題されている。その内容は、課題曲数が1曲の県から9曲を指定している県まで様々であり、曲目を前もって指定せず、当日指定をする県があるなど、難易度の差は甚だしいと言える。当然のことながら、曲目指定をされていれば、試験日までに準備をすることができるが、当日指定は、試験曲としてどのような曲が出題されるのか当日まで不明なため、初心者では対応できないであろう。また大阪市は自由な楽器で演奏が可であり、大和高田市は演奏楽器をピアノ、リコーダー、鍵盤ハーモニカの中から選択できる。ピアノは苦手であるが、ブラスバンドで活躍していたという学生にとっては有利であろう。本学学生が一番多く受験する三重県の課題曲は1曲であり、難易度は比較的 low、初心者が努力すれば十分に到達できる課題であるといえる。しかし、幼稚園教諭の採用試験の課題曲を弾きこなすのは、初心者レベルでは相当の努力が必要であろう。

## (3) 弾き歌い

『弾き歌い』は、ピアノ伴奏をしながら歌うという行為である。ピアノパートを弾きこなした上で、歌を歌うという、二つの異なる行為を同時に行う。「歌を聞いたり、歌ったりする、という行動は、一見簡単でとても単純そうに思える。しかし、実はそこには人間の様々な認知機能が関係しており」<sup>2)</sup> ピアノ演奏だけを行うより、初心者にとっては難しい。ピアノを弾くためには楽譜を読む、楽譜を目で追いながら鍵盤の位置を確認し、左右別々の手の動きに対応する、その上で楽想を考えながら音楽的に演奏する。そして歌詞を見ながら歌のメロディーを思い出し、ピアノ伴奏に合わせて音楽的に歌う。このように同時にいくつもの作業を行うのが『弾き歌い』であり、これらの行為は、「人

間の様々な認知機能の中でも記憶のメカニズムがある一定の重要な役割を果たしている」<sup>3)</sup>のである。学生の中には歌のピッチをピアノ伴奏の調性に合わせられない者もいるが、音を覚えるという記憶とそれを再生するメカニズムが上手く働かないのであろうか。これを克服することも大変な努力が必要である。15回の授業回数、そして僅かな個人レッスン時間しか確保されない中で、初心者が『弾き歌い』ができるようになるためには、効率的で教則的な練習曲とレッスン方法が重要になるであろう。

#### 4. 初心者のための練習曲

##### (1) 練習曲の必要性

前述したように、半期15回のレッスンにおいて、初心者を小学校唱歌の弾き歌いができるレベルにまで指導するのは、大変困難である。大雑把な言い方をすれば、ピアノ学習を始めた平均的な子どもであれば、習得するために2、3年は必要なピアノ技法を、学生は半年で行わなければならない。多くの教員養成校で使用している教則本に則り指導する時間的な余裕は無いといえる。そのためには、必要最低限のピアノ奏法の要素を提示した教則的な練習曲が必要である。若菜(2006)<sup>4)</sup>も先行研究で「初心者のピアノ演奏に必要な力」として「演奏以前に、音楽的経験不足を補うため、楽譜と鍵盤の関係、音高や和音の響きを身体感覚的に捉える過程が必要」「単純なフレーズを使って、指のポジションの取り方、指くぐり、オクターブ奏、アーティキュレーション、腕の使い方、重心の移動などと言った体験をさせておくと、より短い時間で楽曲の演奏に生かす事ができる」と述べている。このような考えで作られた練習曲は、市販されている多くの教則本の一部に掲載されているにすぎない<sup>注1)</sup>。そこで、ピアノ初心者が小学校唱歌の演奏にスムーズに取り組むことができるための練習曲を次に提案する。

## (2) 楽譜とピアノ鍵盤の位置関係

### 1) 鍵盤の位置をブラインドタッチ<sup>注2)</sup>で探る

#### ①ハ音を中心としたおおよその鍵盤の位置を探る — 楽譜1の(A)を参照

初心者が最初に戸惑うのは、楽譜とピアノ鍵盤との関係である。初心者は中央1点ハ音の鍵盤の位置を探すのでさえ困難である。『MICHAEL AARON KLAVIERSCHULE』<sup>5)</sup>という子どものためのピアノ教則本は、中央1点ハ音から2度を始めとして、徐々に上下に音域を広めていくという方法をとっている。また1番からハ音記号の読譜もできるように配慮されているため、大変良い教則本といえるが、本学の学生にはこの教則本を使用する時間の余裕はない。日本の保育系短期大学で多く使用されている『バイエルピアノ教則本』<sup>注3)</sup>は106曲の練習曲によって構成されているが、53番までハ音記号は使用されず、中央の2オクターブの音域でしかピアノを活用していない。62番になって一気に三オクターブ余りにまで音域が拡大する。私の経験から、初心者が62番を弾けるようになるには、平均して半年はかかるため、この教則本を使用しているのは、授業の目標は達成できない。楽譜1の(A)の練習曲は、クルターグ<sup>注4)</sup>のピアノ教則本を参考にしたものである。クルターグはピアノ曲集『遊び Játékok』<sup>6)</sup>という教則本を作曲している。この曲集はピアノ1台または2台のための曲が収められており、全8巻からなる。クルターグはこの曲集を作曲した動機を「子どもがピアノに触れた瞬間から、自由に全鍵盤の上を走り回れたらという考えが、この作品集を生んだ」と述べている。それは、今までのピアノ教則本の内容をガラリと変え、音の塊で音楽を演奏するという曲である。音域も全鍵盤を使用する。一般的に使用されている多くの教則本に見られるような、最初は狭い音域から始めるとか、ト音記号だけの楽譜を使用するといった慣習を打ち捨てているのである。この方法は大変興味深い。恐る恐るピアノに向かう学生の恐怖心を捨てさせ、楽譜と鍵盤のおおよその位置関係を理解させるには有効な方法である。

#### ②ハ音の読譜と鍵盤上の位置を知る — 楽譜1の(B)を参照

初心者はハ長調の曲を弾くことから始めるため、まず、ハ音を知ることが必要である。そのため1点ハ音を中心に、鍵盤上の全てのハ音を楽譜で瞬時

に読めると同時に、弾けるように訓練する。また「楽譜を見ながら鍵盤をブラインドタッチで弾ける」<sup>7)</sup>ことが重要である。「ブラインドタッチとは鍵盤上に目が釘付けになるのではなく、楽譜を目で追いながら、自然に指が正しい音を探り当てて弾くこと」である。角(2004)<sup>8)</sup>は「大人の学習者は手元を見ながら(かじりつきながら)ピアノを弾いている人が多い」「そして今までのほとんどの教則本がこの点に目をつぶっていました」と述べているように、初心者はとかく鍵盤上から目が離せないという事態に陥りがちである。また『鍵盤を見ないで演奏できる能力』は確かに重要であるが、初心者にとっては楽譜から鍵盤への視線の移動の仕方に、より大きな問題がある」と夏目(2010)<sup>9)</sup>は先行研究で述べている。両者が指摘するように、鍵盤にかじりつきながら弾く癖をなくすためにも、暗譜をして演奏するのではなく、楽譜と鍵盤を瞬時に追わなければ弾けないような、様々な高さの八音を不規則的に並べた練習曲である。

### (3) 指番号と2度の音

#### 1) 指番号

初心者にとってピアノを弾く時の指番号は重要である。最初に指番号をおろそかにすると効率よくピアノを学習することはできない。順次進行と指番号の関係、和音の音型に対応した手の形と指番号の関係を指導する必要がある。

##### ①順次進行の読譜と鍵盤の位置を知る — 楽譜1の(C)を参照

これは5本の指を順番に使って、八音からの上行と下行の順次進行を弾く練習曲である。楽譜と鍵盤の関係を知るためであるのは言うまでもなく、指番号に慣れるためでもある。これは『バイエルピアノ教則本』の62番と似ている。62番は起点が八音、二音、ト音と三種類の順次進行が表れるため、より高度であるが、ピアノ練習の最初に62番の意図する点、すなわち広く鍵盤を使用する、順次進行を会得するなどの練習をすることに意義がある。

##### ②『かえるのうた』を弾く — 楽譜1の(D)を参照

基礎的な訓練ばかりでは達成感が得られないため、5本の指で弾ける簡単な曲『かえるのうた』を弾く。楽譜を構成する最も基礎になる4拍子、四分

音符，四分休符を理解するための練習でもある。

## 2) 2度の音 — 楽譜2の(E)を参照

ハ音に隣接する2度の音の読譜と運指(指かぶせ)に慣れる練習曲である。前出の角も、読譜のコツは「音符をひとつひとつ読んでいくのではなく、図形的に捉えるということ」<sup>10)</sup>であると指摘している。初心者にとっては、鍵盤上で隣接する音と楽譜の関係を理解することすらも困難なのである。これは、ハ音を中心にして、2度上下する音の読譜と運指に慣れるためのものである。『MICHAEL AARON KLAVIERSCHULE』の16番と17番の曲は右手、左手の1と2、2と3、3と4、4と5の指で弾く2度の練習曲であるが、指の訓練のためにはこの方法が適しているといえる。しかし、ここに提案する練習曲はハ音を中心とする上下2度の読譜に重点を置いているため、1と2の指だけの練習とした。そのために2の指が1の親指をかぶせて弾くという少し高度な指使いを最初の練習から課している。

## (4) 和音と手の形

### 1) ハ長調の主和音【Cコード】の右手練習 — 楽譜2の(F)を参照

①はハ長調主和音【Cコード】の基本形、②は第一展開形、③は第二展開形である。和音の形は左手の伴奏に必要なだけではない。メロディーは和声音や非和声音(経過音、刺繍音系など)で作られているため、基本になる和声音の形を覚えることによりメロディーラインを理解することができるのである。小学校唱歌を例に取ってみても、2度、3度の他に和音に由来する5度、4度、6度の関係でメロディーが作られている。この練習曲はそれらの音程関係を知り、跳躍音程を弾きやすくするための練習である。またハ長調の主和音を練習すれば、様々な和音に応用することができる。

### 2) ハ長調の主和音【Cコード】の左手練習 — 楽譜2の(G)を参照

左手の和音練習は、伴奏として必要である。伴奏の形態は後述するように様々であるが、いずれも和音が基本になって作られている。3種類の終止形を覚えることによって、即興的に伴奏を弾くこともでき、音楽活動の実践において欠くことのできない技術である。ここではまず、ハ長調の主和音【Cコード】の



みの練習を行う。①はその基本形、②は第一展開形、③は第二展開形であり、楽譜を見るだけで、手がそれらの和音の形を無意識に鍵盤上で捉えることができるようにするための練習曲である。

### 3) ハ長調の主音（ド）中音（ミ） 属音（ソ）の読譜と鍵盤の位置を知る — 楽譜3の（H）を参照

ド、ミ、ソの音の読譜とその鍵盤の位置をブラインドタッチで弾けるようになるための練習である。ハ音から3度上のミの音、そして5度上、4度下のソの音、及びオクターブの音を読譜し、鍵盤を探さなくてもいわゆるブラインドタッチで弾けるようにする。（F）（G）で行った和音の練習によって、一音一音を読まなくても図形として音符を読めるようになってはいるはずであり、その音を鍵盤上で感覚的に捉えられるようになるまで練習する。

## （5）『かえるのうた』を伴奏の形を変えて弾く

### 1) 伴奏の形を変えて弾く — 楽譜3の（I）を参照

ハ長調の主和音を用いて、楽譜に示した5種類のパターンを練習する。簡易伴奏では、左手にメロディックな伴奏を用いることはほとんど無いため、この5種類の形を先に練習することによって、スムーズに歌の曲を弾くことができる。『初等科音楽教育法』（音楽之友社）に掲載されている歌唱共通教材の簡易伴奏形は④の形が多い。①の伴奏形は『かたつむり』の後半に使用され、②の伴奏形は『ふじ山』『こいのぼり』『いるかはザンブラコ』（この曲は愛唱歌として掲載されている）に使用されている。④の伴奏形は『かたつむり』の前半『春が来た』『春の小川』『とんび』『まきばの朝』『スキーの歌』である。他の歌唱曲の伴奏は、この分類には属さないが、和音を基にした伴奏であるため、和音の形を訓練すれば、応用は可能である。

## （6）リズムを知る『かえるのうた変奏曲』 — 楽譜4の（J）を参照

### 1) リズムを知る

『かえるのうた』のメロディーを、様々なリズムに変奏して弾く課題である。新しいリズムを学ぶためには新しい曲を勉強する、というのが教則本の常であ

る。その方法は読譜のためには有効であるが、本課題は時間を短縮し有効的に基礎を習得することが目的であるため、あえて既習の『かえるのうた』を使用した。既習曲でリズムの種類を重点的に習得するための練習曲である。

#### ㉑ 8分音符

4分音符の長さを2つに分割する8分音符の練習は、大変重要である。2つの8分音符を等分する長さで弾くことを初心者には十分指導しなければならない。この8分音符の練習は『バイエルピアノ教則本』では45番、『MICHAEL AARON KLAVIERSCHULE』では41番まで待たなければならない。初心者が『春がきた』『虫のこえ』『夕やけこやけ』などを弾くための基礎的な練習である。

#### ㉒ 付点8分音符

子どものための歌には、付点8分音符が使用されている曲が多い。付点のリズムは軽快であるため、元気で明るいイメージの童謡に多く使用されている。小学校の歌唱共通教材の『かたつむり』『かくれんぼ』『こいのぼり』などを弾くための準備練習になる。ちなみに『バイエルピアノ教則本』における88番、89番の曲には、このリズムがテーマの1部として使われている。『MICHAEL AARON KLAVIERSCHULE』1巻では付点8分音符のリズムを使用している曲はない。このように初級の教則本で扱われることが少ないこのリズムを、集中的に練習することが望ましい。

#### ㉓ 付点4分音符

左手が8分音符の伴奏であれば、右手の付点4分音符は拍を数えやすいため、弾きやすいといえる。小学校の歌唱共通教材においては、多くの唱歌の曲中に1度は使用されているリズムである。『バイエルピアノ教則本』では48番からこのリズムが使用されているように、一般的には付点8分音符より簡単なリズムとして、扱われている。『MICHAEL AARON KLAVIERSCHULE』1巻にはこのリズムを使用している曲は無い。

## (7) ハ長調

### 1) ハ長調の和音 — 楽譜4の(K)を参照

ハ長調の主和音【C】下屬和音【F】属和音【G】属七【G7】の和音を分散和音と共に右手，左手で覚え，最後の4小節でI-IV-V-Iの終止形を練習するための課題である。

和音の練習課題は、『MICHAEL AARON KLAVIERSCHULE』1巻の30, 31番に掲載されているが，そこでは基本形のみを扱っている。また『大学ピアノ教本』では主和音と属七の第1展開形の和音のみを用い24曲もの曲で練習するようになっている。そして下屬和音の練習は25, 26番で行う。このように時間をかけて練習しなければならないほど，終止形の連結は音楽活動の実践に役立つものであるため，この練習曲は重要であるといえる。

### 2) 歌いながらメロディーを弾く — 楽譜5の(L)を参照

ナチュラルポジションで演奏できるベートーヴェンの『喜びの歌』を，歌いながら演奏する課題である。新しいメロディーの譜読みができるかを確認し，音楽的に演奏すること，歌いながら演奏することを目標にする。これまでに提案した練習曲は，初心者が楽譜と鍵盤に早く慣れるための曲であったが，音楽的に演奏することが最も大切であることも指導しなければならない。「たとえば右手だけでも，人を感動させる音を出すことが重要であり，何よりも自分が楽しいとすることが大切なのです」と角(2005)<sup>11)</sup>も言っているように，時間の無い中で，その大切さを指導することを忘れてはならない。

### 3) ハ長調の音階と拍子 — 楽譜5の(M)を参照

4拍子と3拍子のハ長調の音階を弾く。最初は右手で，次に左手で練習し，最後は両手で行う。両手の練習は反進行を用いているが，指くぐりや指かぶせといった運指方法が左右同時に行えるため，初心者にとっては比較的簡単なのである。反進行を使った曲はハンガリーの教則本にその例を見ることが多い。CZÖVEK ERNAの『ZONGORAISKOLA』<sup>12)</sup>というピアノ教則本には102, 170, 187, 190番の練習曲に反進行が使われている。前述したクルターグも多用している。また，同じ音階であっても拍子が変わればアクセントの位置が変わり，4拍子と3拍子では音楽的に違った面白さがあることを知るための練習

曲でもある。

#### (8) ト長調 — 楽譜6の(N)を参照

小学校唱歌第1学年の最初の共通教材『うみ』はト長調の曲である。ト長調は『茶つみ』『スキーの歌』の2曲に使われているだけであるが、基礎的な調として練習する必要がある。

①の音階は、読譜とブラインドタッチで鍵盤を捉えることを優先させるため、無拍子にしている。音符を一音ずつ読むのではなく、図形として捉える訓練の続きである。

②の和音はト長調の主和音【G】下屬和音【C】属和音【D】属七【D<sub>7</sub>】の和音を分散和音と共に右手、左手で練習するための課題曲である。和音だけを取り出して弾けば終止形の連結を練習できるようになっている。

③は両手で反進行の音階を弾く課題曲である。後半の4小節では、終止形I-V<sub>7</sub>-IとI-IV-Iの練習ができるようにしてあるため、②と③の楽譜を利用して3種類の終止形の練習をするのが効果的である。

#### (9) ヘ長調 — 楽譜7の(O)を参照

『日のまる』『もみじ』『こいのほり』『冬景色』『ふるさと』はヘ長調で作曲されている。童謡においてもヘ長調の次に多用されている調であるため、弾き歌いのためにはヘ長調は十分に練習しなければならない。ト長調と同じ考えで作った練習曲であるが、その内容は次のとおりである。

①の音階は、読譜とブラインドタッチで鍵盤を捉えることを優先させるため、無拍子にしている。音符を一音ずつ読むのではなく、図形として捉える訓練の続きである。

②の和音はヘ長調の主和音【F】下屬和音【B<sup>b</sup>】属和音【C】属七【C<sub>7</sub>】の和音を分散和音と共に右手、左手で練習するための課題曲である。和音だけを取り出して弾けば終止形の連結を練習できるようになっている。

③は両手で反進行の音階を弾く課題曲である。後半の4小節では、終止形I-V<sub>7</sub>-IとI-IV-Iの練習ができるようにしてあるため、②と③の楽譜を利用し

て3種類の終止形の練習をするのが効果的である。

## 5. 上記の練習曲の実践と課題

これらの練習曲は授業の前半部分で使用し、グループレッスンと個人レッスンを併用して指導している。まず、1時間に習得できる練習曲を設定し、グループレッスンにおいてその内容を説明し全員練習を行い、その後、その成果を個人レッスンで確認するという方法をとっている。2010年の秋学期の授業において、この練習曲を使用して実践中であるが、ハ長調(A)～(M)の課題は4回余りの授業で終わることができた。その後、『春がきた』の課題曲を与えたが、ほとんどの学生は2、3回の授業でその曲の弾き歌いをすることができた。弾き歌いの前に、準備練習として行ったこれらの練習曲の効果は大きかったと思われる。『春がきた』を終了した学生にあわせ、次にト長調(N)の練習曲について説明し、グループレッスンを行う。同じようにその成果を個人レッスンで確認をする。合格した生徒は『うみ』を練習する。次はヘ長調(O)を練習し、習得した生徒は『ふるさと』の弾き歌いに取り組む。各唱歌を楽譜どおりの伴奏で弾いた後に、コードネームを用いた伴奏でも弾けるように指導している。それは多少の困難を伴うが、理解できれば応用が利き、実際場面でも役立つからである。ここまでは初心者全員、同じ練習曲と唱歌に取り組むが、その後は、個人の音楽的な資質や努力に差があるため、学生が自由に選曲した唱歌を練習する。前述したように、初心者にとっては、グループレッスンと個人レッスンを併用して行うことが重要である。グループレッスンをすることにより、ともすれば諦めてしまいがちな技術の習得を、お互いに励ましあい、刺激しあい、切磋琢磨して継続できるというメリットがあり、実際に良い成果が得られている。個人レッスンも非常に重要である。個々の進度にあわせて指導しなければ、ピアノ奏法の習得は困難なものになるであろう。

初心者は1曲を弾き終えた後に、「面白い」「はまってしまった」と一応に感想を述べ、次の曲に挑戦しようとする意気込みが感じられる。このようにピアノ実技は、単なる実技の習得にとどまらず、学生はそれによって達成感を得ることができ、克己心が養われるなどの自己成長をするのである。また自らの将

来の職業を再確認し、その職業への自信をもつなどのキャリア発達の面も見られる。それゆえ、許される限りの少人数で丁寧に指導しなければならないのである。

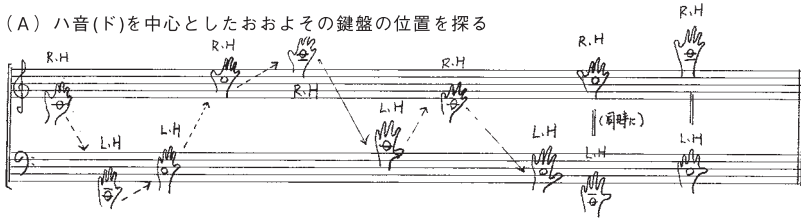
ここに示した練習曲をコンパクトにまとめることができたのは、音符や休符の種類、リズム、音程、和声などの楽典的な知識は、『音楽科教育法』の授業で指導しているためである。しかし学生によっては、ピアノ実技を行う『児童音楽』と楽典的な知識などを学ぶ『音楽科教育法』が履修方法によって前後するため、楽典的な知識がないままピアノ実技を受講する学生もいる。今後はこれらの講義の履修方法の工夫と、更なる効率の良い練習曲の補足が課題としてあげられる。またピアノ実技の既習者についても、そのレベルの差がはなはだしいため、体系的な練習曲の検討とその作成が急務であろう。

## 6. ま と め

ピアノ初心者が半期15回の授業で『ピアノ演奏』及び『弾き歌い』を習得するのは、極めて困難であるといえる。市販されている教則本は練習曲の分量が多いため、それを使用して指導する時間的な余裕はなく、指導者にとっても負担が多い。そこで、「初心者のピアノ演奏に必要な基礎的技法」と「弾き歌いの技術に必要な力」をつけるための練習曲の作成を試みた。現在、この練習曲を使用して実践中であるが、ピアノ実技の習得のみならず、キャリアアップや自己成長の面においても大きな成果が得られると考えている。今後は、さらに効率の良い練習曲を補足し、『教員養成校におけるピアノ初心者のための教則本』を完成させると共に、ピアノ実技の習得が自己成長やキャリア発達の一因になりうることを検証する予定である。

(楽譜 1)

(A) ハ音(ド)を中心としたおおよその鍵盤の位置を探る



(B) ハ音の読譜と鍵盤の位置を知る



(C) ハ音(ド)から始まる順次進行の  
読譜と指番号



(D) かえるのうた



(楽譜2)

(E) ハ音(ド)に隣接する2度の音

Musical score for exercise (E) in C major. It consists of two staves. The first staff has a treble clef and the second has a bass clef. The music is in 4/4 time. The first staff contains the notes C4, D4, E4, F4, G4, A4, B4, C5 with fingerings 1, 2, 1, 2, 1 above the notes. The second staff contains the notes C3, D3, E3, F3, G3, A3, B3, C4 with fingerings 1, 2, 1, 2, 1 below the notes. Slurs connect the notes in pairs (C-D, D-E, E-F, F-G, G-A, A-B, B-C) in both hands. A section marked '(同時に)' (simultaneously) shows the two hands playing together.

(F) ハ長調の主和音 [C] 右手の練習 (拍を数えながら)

Musical score for exercise (F) in C major, right hand practice. It consists of three staves in 4/4 time. Each staff starts with a C major chord (C-E-G) and is followed by a sequence of notes: C, E, G, C, E, G, C, E, G, C. Fingerings are indicated above the notes: (1) 1, 3, 5, 3, 1; (2) 1, 2, 5, 2, 1; (3) 1, 3, 5, 3, 1.

(G) ハ長調の主和音 [C] 左手の練習

Musical score for exercise (G) in C major, left hand practice. It consists of three staves in 4/4 time. Each staff starts with a C major chord (C-E-G) and is followed by a sequence of notes: C, E, G, C, E, G, C, E, G, C. Fingerings are indicated above the notes: (1) 5, 3, 1, 3, 5; (2) 5, 3, 1, 3, 5; (3) 5, 2, 1, 2, 5.



(楽譜3)

(H) ハ長調の主音(ド) 中音(ミ) 属音(ソ) の読譜とブラインドタッチ

(1) 「かえるのうた」を左手の伴奏を変えてひく

※左手をa) b) c) d) e)のパターンでひく。全てのパターンの終わりの小節(8小節目)は※で弾く。

※和音を変える (K)の次に指導するのがよい

b = フラット半音下がる

(楽譜4)

(J) リズムを知る 『かえるのうた・変奏曲』

◎ 8分音符 ♩ = ♩

◎ 符点8分音符 ♩ = ♩

◎ 符点4分音符

(K) ハ長調の和音

終止形の練習

|                 |                   |             |
|-----------------|-------------------|-------------|
| K 1 = C-G(G7)-C | K 2 = C-F-G(G7)-C | K 3 = C-F-C |
|-----------------|-------------------|-------------|

(楽譜5)

(L) 歌いながらメロディーをひく

Musical score for exercise (L) in 4/4 time. The right hand plays a melody with a slur and a triplet of eighth notes. The left hand plays a bass line with a slur and a triplet of eighth notes.

Musical score for exercise (L) in 4/4 time. The right hand plays a melody with slurs and fingerings (2, 1, 2, 1, 3). The left hand plays a bass line with slurs and fingerings (4, 3).

※ 71

(M) 音階と拍子

①右手で ②左手で ③両手で

Musical score for exercise (M) in 4/4 time. The right hand plays a scale with fingerings (1, 2, 3, 1, 2, 3, 4, 5, 4, 3, 2, 1, 3, 2, 1). The left hand plays a scale with fingerings (1, 2, 3, 1, 2, 3, 4, 5, 4, 3, 2, 1, 3, 2, 1).

Musical score for exercise (M) in 3/4 time. The right hand plays a scale with fingerings (1, 2, 3, 1, 2, 3, 1, 2, 3, 1, 2, 3). The left hand plays a scale with fingerings (1, 2, 3, 1, 2, 3, 1, 2, 3, 1, 2, 3).

(N) ト長調

(楽譜6)

① ト長調の音階

② ト長調の和音

終止形の練習 K2 = G - C - D(D7) - G

③

終止形の練習

K1 = G - D(D7) - G

K3 = G - C - D(D7) - G

(O) へ長調

(楽譜 7)

㉑ へ長調の音階

㉒ へ長調の和音

終止形の練習 K2 = F - B<sup>b</sup> - C(C<sub>7</sub>) - F

㉓

終止形の練習  
K1 = F - C(C<sub>7</sub>) - F    K3 = F - B<sup>b</sup> - F

## 注

- 注1) 大学音楽教育研究グループ (1977第1刷) 『教職課程のための 大学ピアノ教則本 バイエルとツェルニーによる展開』, 教育芸術社  
大学音楽教育研究グループ (1999台1刷) 『歌唱教材伴奏法 バイエルとツェルニーによる』, 教育芸術社  
この2冊は右手のナチュラルポジションで演奏可能なメロディーとハ長調の主要三和音とその伴奏形を最初に教える曲が掲載されているが, この方法は, 本稿で提案している課題に近いテキストである.
- 注2) 鍵盤を見ないで演奏できる能力をいう. ブラインドタッチは和製英語であり, 英語ではタッチタイピングである.
- 注3) 『バイエルピアノ教則本』を教材としている短大, 大学が多いと思われる. 採用試験の音楽関係実技試験の一覧表でもわかるように, バイエルから出題している県・市は名古屋市, 埼玉県, 京都府である. 全国レベルで調査すればもっと多いと推測される. 三重県では松阪市の幼稚園教諭・保育士採用試験の課題曲はバイエルの中から出題されているため, 保育士や教員養成校で『バイエル』を教材に使用せざるを得ないという事情がある.
- 注4) クルターグ・ジェルジュは1926年2月19日生れのルーマニア・ルゴイ出身のハンガリー人の作曲家である.

## 引用文献・引用教則本

- 1) 若菜直美他 (2006) 『短期大学保育科における初学者・初心者のためのピアノ指導法の改善 — 専任講師・非常勤講師の協同・協奏の試み —』文化女子大学室蘭短期大学研究紀要
- 2) 3) 谷口高士編著 (2000第1刷発行) (『音は心の中で音楽になる 音楽心理学への招待』のP151に掲載されている, 後藤靖宏『歌の記憶』の中の1文である.
- 4) 若菜直美他 (2006) 『短期大学保育科における初学者・初心者のためのピアノ指導法の改善 — 専任講師・非常勤講師の協同・協奏の試み —』文化女子大学室蘭短期大学研究紀要 P15

- 5) (1990) 『MICHAEL AARON KLAVIERSCHULE』 (DITON CORONA)
- 6) KURTAG (1979) 『JÁTÉKOK』 EDITIO MUSICA BUDAPEST  
クルターグ・ジョルジュ作曲 子どものためのピアノ曲集『遊び Jatekok』  
(EDITIO MUSICA BUDAPEST)
- 7) 角聖子著 (2004第1刷発行) 『ブライントタッチで弾ける大人のための楽しいピアノスタディ』 1巻から3巻, 音楽乃友社
- 8) 角聖子著 (2005第1刷発行) 『「ピアノ力」をつける!』 音楽乃友社  
P103～P123
- 9) 夏目佳子 (2010) 『ピアノ演奏における楽譜と鍵盤間の視線移動について—  
初級者に対する実験的事例研究—』 日本音楽教育学会, 音楽教育学第40巻  
第1号
- 10) 角聖子著 (2005第1刷発行) 『「ピアノ力」をつける!』 音楽乃友社 P123
- 11) 角聖子著 (2005第1刷発行) 『「ピアノ力」をつける!』 音楽乃友社 P36
- 12) CZOVEK ERNA (1966) 『ZONGORAISKOLA』 KLAVIERSCHULE  
1巻 EDITIO MUSICA BUDAPEST

### 参考文献

- ・中島卓郎著 (2002) 『実践的指導力を高めるピアノ教育の試み—教員養成教育の場合—』 信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要 教育実践研究
- ・辻 志朗著 (2005第1刷発行) 『誰でもぜったい楽譜が読める!』 音楽乃友社
- ・谷口高士編著 (2000第1刷発行) 『音は心の中で音楽になる』 北大路書房
- ・幡野友香 (2008) 『かんたん楽譜の読み方』 成美堂出版

### 参考教則本

- ・Ricos Werkstatt(1989) 『Musik wird lebendig』 RICORDI
- ・加勢るり子訳編 (1969第1刷発行) 『ピアノの学校 コダーイ・こどもの音楽教育』 音楽之友社
- ・橋本幸一著 (1992初版発行) 『おとなのためのピアノ教本1, 2』 ドレミ楽譜出版社